

シチトウイべつ甲病に関する研究

第28報 寄主植物

藤川 隆・富来 務

(大分県農業技術センター)

FUJIKAWA, T. and TOMIKU, T.

Studies on the Downy Mildew of Chinese Matgrass
(XXVIII) On the Host Plants

1961年6月30日分離不可能とされた本菌(*Phytophthora cyperi*(Ideta)S. Ito)の人工培養にはじめて成功した。そこで今回は1961~'72年各種植物に対する病原性を示するため、第2号菌による新葉の無傷接種を25°Cで行なった。供試植物は発芽直後または新鮮な葉を無消毒か昇汞1,000倍液で5分間処理後十分に水洗しペトリ皿に入れ、殺菌水に浮遊させ萎凋を防いだ。ついで馬鈴薯寒天で培養した菌糸と遊走子嚢を1回に数葉、2~3回以上接種し、14日後まで観察した。なお発病は病徴、再分離により確認した。初発は2日後より油浸状病斑を形成し、対

象の無接種区は発病しなかった。その結果を日本有用植物病名目録により食用作物、野菜、果樹、特用作物、観賞植物、牧草および雑草などに区別した成績は第1表の通り。

第1表の結果、食用作物は5種類、野菜は16種類、果樹では16種類、特用作物は8種類、観賞植物は21種類および雑草13種類の計79種類の有用植物並びに雑草に寄生性を有する多犯性菌であることが判明した。そこでこれらの寄主植物には十分注意する必要がある。(1975年10月1日稿)

第1表 シチトウイべつ甲病菌の寄主植物(1961~'72)

区 別	事 項		
	人 工 接 種 試 験 結 果		
	+	±	-
	(発病中~多)	(発病少)	(発病無)
食 用 作 物	ジャガイモ, ラッカセイ, ソラマメ, ソバ	サツマイモ	イネ, オオムギ, コムギ, トウモロコシ, ダイズ, アズキ
野 菜	スイカ, マクワウリ, シロウリ, ニガウリ, トマト, トウガラシ, ピーマン, タマネギ, ハス, サトイモ, ゴボウ, オクラ	キュウリ, カボチャ, ハクサイ, カンラン	ナス, ニンジン, ヤマノイモ, ダイコン, イチゴ, ミョウガ, ミツバ, シソ, セリ
果 樹	ナシ, リンゴ, モモ, ウメ, ビワ, スモモ, ブドウ, イチジク, カキ, ミザクラ, クルミ, ナツメ, ウンシュウミカン, カワノナツミカン, キンカン	ナツミカン	ハッサクミカン
特 用 作 物	シチトウイ, ゴマ, クス, ハゼ	ナタネ, テンサイ, コンニャク, クワ	チャ, タバコ
観 賞 植 物	サルビア, ゼラニウム, アサガオ, ダーリア, キキョウ, ベチユニア, ペゴニア, ポインセチア, タチアオイ, ライラック, オオモミジ, クコ, ニシキギ, ハウチワカエデ, ハナズオウ, イヌビワ, ヤナギ	アロエ, ハリエインジュ, アマリリス, ホオズキ	サボテン, ユリ, キク, ケイトウ, シャクヤク, ハマオモト, ツルムラサキ, ガーベラ, シャガ, カラフ, スイレン, ハナショウブ, ギボウシ類, ホウセンカ, イチヨウバラ, ナンキンハゼ, ゲッケイジュ, サンゴジュ, スダレヨシ, ザクロ, クチナシ, アジサイ, フェニックス, サザンカ, ツツジ, シャクナゲ
牧 草	—	—	シロクロバー
雑 草	ハマスゲ, アゼガヤツリ, コゴメカヤツリ, タイヌビエ, ジュズダマ, ヨモギ, ギシギシ, イラクサ, ハナタデ, スミレ	コナギ, ヒルガオ, カラスウリ	エノコログサ, サヤヌカグサ, スズメノテッポウ, ドクダミ, イタドリ, ツユクサ, ゲンノショウコ

備考：植物名は主として日本有用植物病名目録によりその他、牧野富太郎、村越三千男、宮沢文吾氏などの図鑑によった。